

# ペットの共生発展を

2018 MESSAGE

年頭の挨拶・提言

## 人とペットの絆を守る 「飼い主さんを支える社会」へ

公益社団法人 Knots（ノッツ）

理事長 富永 佳与子



達との生活の素晴らしさを伝える活動も、この春からのドッグランや様々な啓発の場面でも、「成年」は活用されていくことでしょうか。

このような節目の年には、後に考えれば、「あの年が転換点だったよね」と言えるような、変化が起ころうにすることがふさわしいのではないのでしょうか。社会制度で考えれば、「飼い主飼養責任」と「譲渡制度」です。

これまでは、飼い主が飼養責任を果たせなくなったり、そこで終わりとなり、家族である動物達を手放し、新しい飼い主に託すことを求められてきました。その未来は、特に飼い主さんの高齢化に伴う、「飼養の不安」「入院」「施設入所」などが原因で起ころうため、高齢期に差し掛かると、動物達との暮らしそのものを諦めるといふ社会になっていきます。

ここで立ち止まって考えてみましょう。私達は、家族の一員や大切なパートナーとして「飼い主さんとペットの絆」を社会に伝え、譲渡を含め「絆を創る」ことを中心に努力を重ねてきています。

しかし、その創った絆を「守る」ことについて、どのような努力をしてきたのでしょうか。

動物管理センター等の引き取り事由を見ると

き、最後の砦であるこの場所にこれだけの数があるのなら、その向こうには、どれだけの数の「大切な絆」を切り離された飼い主さんとペットが居られるのでしょうか。そして、それを身近に見た方は、動物達との暮らしを選択するのでしょうか。

昨年、ペットと同居できることを条件とした高齢者施設がオープンし、「絆を守る」ことに目を向けた事業も始まっています。飼い主さんがペットとの絆を諦める時は、高齢化だけでなく、寝がうましくない時、ペットが介護状態になった時などにも危機があり、緊急災害時は言うまでもありません。

これまでは、動物との暮らしが始まってしまえば、「飼い主さんだけが頑張る」社会でした。

しかし、私たちは、「飼い主さんとペットの絆」に、もっと寄り添う仕事ができると思います。12年に「度」の成年、「飼い主さん」とペットの絆をどちらかが命終えるまで守る事業に目を向ける転換点の年になることを願い、年頭の「挨拶」とさせていただきます。

あけましておめでとございます。いつも、温かいご理解とご支援を賜り、厚くお礼申し上げます。本年もどうぞ宜しくお願ひ申し上げます。

2018年、成年が巡ってきました。ペットの仕事に関わられる方には、社会に向けて、12年に一度のアピールできる機会を作りやすい年とも言えるでしょう。

六甲山カンツリーハウス様とコラボレーション開催となった「りぶ・らぶ・あにまるず・フェスティバル」も、適正飼養や動物

頌春  
2018